

《今朝の聖書から》『ルカ福音書』1:5～25を順に読み進めましょう。5節で分かるようにザカリヤというのは、ユダヤ教の祭司の名前です。その妻をエリザベツといった事も分かります。6節の“神の前に正しい人”というのは、律法のさまざまの定めに従ったということです。“みな落ち度なく行っていた”とあります。ところがこのエリザベツには子が出来なかったことが記されています。この箇所では、このことが強調されている事が分かります。7節には“彼らは(子供が出来するには)年とっていた”ともあります。要するに夫婦としては恵まれていませんでしたが、正しく信仰において律法を守っていたという事になります。クリスチャンも忘れてはいけませんが、幸福だから定めを守る、とか、不幸に見舞われたので、信仰から遠退く、という思いは全くないのです。8節以降に進みましょう。祭司の数は実に多く、一生に一度も、年に一度の犠牲を捧げる務めが回ってこないで亡くなってしまうことも珍しいことではなかったようです。祭司は、エルサレム神殿の聖所に入り、人々の罪を贖うために、香をたき、人々はその外側で祈っていました(10節)。聖所で一人きりのザカリヤに御使が現れる事になります。“あなたの祈りが聞かれた”と彼は告げられました。その祈りというのは、“祭司としての人々に託されて祈らなければ成らない、そして神に求めなければ成らない事”とはちょっと違い、彼の家庭の事でした。この祭司はこの事を祈っていたので“あなたの祈りは聞かれた”と御使からの決定を告げられるのです。“ヨハネ誕生の告知”です。聖書は17節で、その子の務めについても記しています。ヨハネは神を迎える準備を人々に整えさせる、というのです。ガブリエルは、ザカリヤに現れた目的を“この事を伝えるため(19節)”だと言います。そしてそれは“喜ばしいこと”だと宣言します。神様の計画は、測りがたく、私たちが不思議に思うとか、期待するとかという事とは関係なく、救いのために正しい人の上にやってくるのです。彼女は“恥が取り除かれる”という言葉の口にしたが、この恥というのは、“主に信頼しきってはいなかった”ということです。

# 週報

2006年 12月 17日



主の業に励もう コリント15:58

日本フリーメソジスト

## 清水草薙キリスト教会

教会学校	毎日曜日	午前 9:00
礼拝式	毎日曜日	午前 10:30
	(聖餐式 第一日曜日)	
夕礼拝式	毎日曜日	午後 7:00
エステル商会	毎水曜日	午前 10:30
聖書研究祈祷会	毎水曜日	午後 7:00
ホームページ	<a href="http://kusanagi.church.jp/">http://kusanagi.church.jp/</a>	

〒424-0885

静岡県清水区草薙杉道3丁目2-26

☎0543-45-4070 E-Mail [grace@big.jp](mailto:grace@big.jp)

牧師 村上定幸